

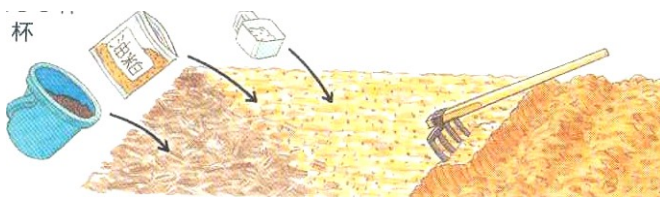
3月上旬

春どり葉ダイコンづくり

- ダイコンの葉はビタミンが豊富で、冬場で50日ぐらいで収穫できます。
- 品種は「葉美人」「葉宝」「葉太郎」「ハットリくん」など葉ダイコン専用の品種があります。
- 栽培は堆肥を畑全面にまき耕します。追肥をして肥切れさせないように、間引きも入念にして、混み合わないよう育てます。
- 冬場はトンネル保温をすることで、みずみずしい葉ものが得られ、ほとんど周年栽培できます。
- 2月下旬から3月下旬播種すると、5月に収穫できます。(トンネル被覆)

1 畑の準備・種まき

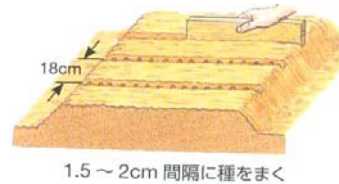
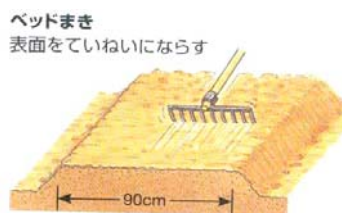
1㎡当たり 完熟堆肥5握り、化成肥料40g 油カス50g



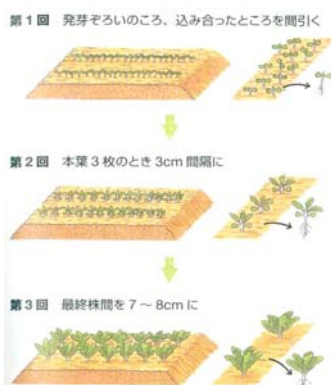
種まきの5～7日前に畑全面に堆肥、肥料をばらまき、15～20cmの深さに耕す。

2 種まき

切れで幅2センチ、深さ1cmくらいの溝をつける。

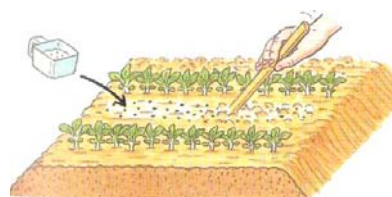


3 間引き



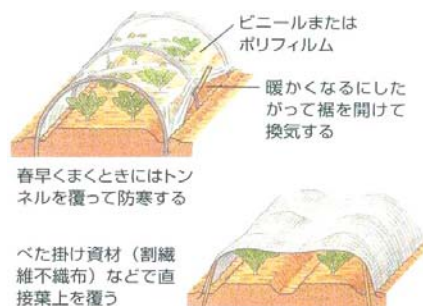
4 追肥 (1列当たり)

化成肥料20gを列の間にばらまき、竹べらなどで土に混ぜ込む



6 収穫・利用

5 保温・防寒



草丈25cm以上に育ったら、株元から引き抜き収穫して利用する



3月中旬

ネギ・ハネギの春まき栽培

ネギの春まき栽培

- 3月中下旬に播種し、7月中旬に定植すると、12月始めから3月始めまで収穫できます。

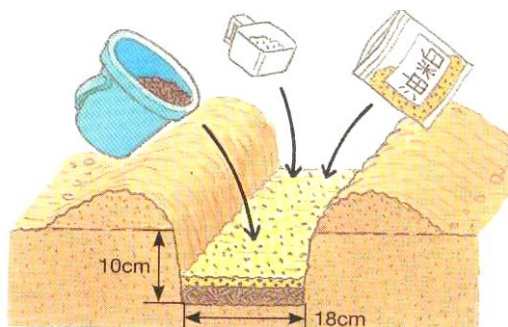
ハネギの春まき栽培

- 3月下旬に播種し、6月中旬に定植すると、8月末から10月上旬まで収穫できます。
- ネギは高温・乾燥や低温にも比較的強い方ですが、土壤の多湿には大変弱いので、通気性の良い土壤が適しています。
- ネギは連作障害は出にくく、土寄せのために深く土を掘上げるので、土壤改良効果もあります。
- ネギの苗はできるだけ大苗に育て、大きさをそろえて植えます。

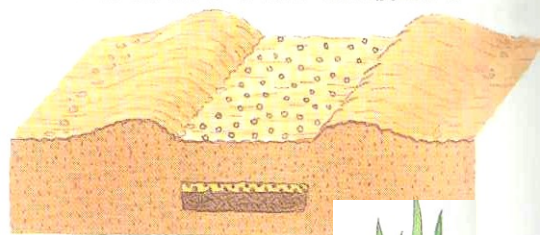
ネギ苗づくり

畝の長さ 1 m 当たり

完熟堆肥 3 握り 化成肥料 40 g 油カス 40 g

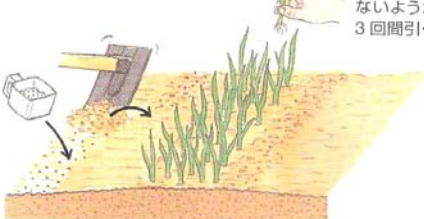


溝の底面をていねいにならし、全面に1cm間隔くらいに種をばらまいて1cmくらい覆土する



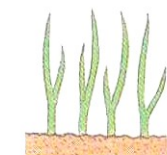
〈列の長さ1m当たり〉

化成肥料 大さじ2杯



溝をつかって肥料を施し、軽く土寄せをする

葉が込み合わないよう2～3回間引く



間引きして株間をしだいに広くとる



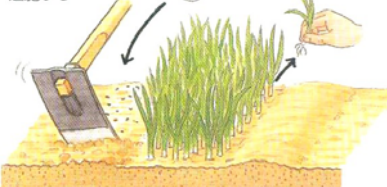
最終株間は2～3cmとする



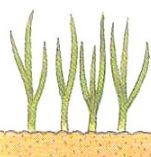
下のほうの枯れ葉を取り除いて植える

ハネギ苗づくり

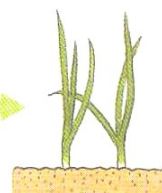
15～20日おきに少量の化成肥料を追肥する



葉が込み合わないよう2～3回間引く

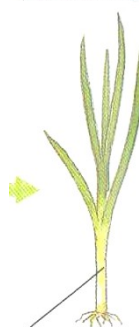


葉がくっつき合わないよう適宜間引く



最終株間は4～5cmに

できあがった田



直径1cmほどの太さがよい

3月下旬

春まきハクサイに挑戦

1 栽培時期と品種

(○トンネル △播種 ○定植 □収穫)

作 型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種
トンネル 春どり			○										春蒔き極早生 無双

2 栽培上の注意点

- ① 春蒔き栽培は、本葉10枚程度まで最低気温10℃以上保たないと、花芽ができ、結球せずにと立ちするため、余り早まきしない。
- ② 3月蒔きでは育苗日数30日前後で、本葉5～6枚で定植します。1～2月蒔きでは35日前後で、本葉7枚程度のやや大苗を定植します。



3 本田準備と肥培管理

定植する1ヵ月前までに、3.3㎡当たり完熟堆肥10kg、石灰質資材500g、BMようりん200gを全面に散布耕起します。

元肥は定植の10日前に化成肥料を400g施用します。

定植3日前までにトンネルを張り、地温を上げておくことが大切です。

追肥は、定植後35日前後の芯葉が立ち上がってきたときに、生育に応じて化成肥料を100g程度施用します。

4 トンネルの温度管理

定植後、活着までは密封し、温度を保って活着を促します。活着後も外葉の発育期は生育適温20～23℃よりも高めで管理します。33℃程度までは換気は行わず、初期生育の促進と花芽分化の抑制を図ります。

5 トンネル除去

定植後35日程度で外葉の展開数が15枚前後となり、結球体勢に入ります。このころより、トンネル内の温度は15～20℃で管理して結球をすすめる一方、温暖な日をねらってトンネルを除去します。



6 灌 水

定植後は十分灌水して活着を促します。

ハクサイは、結球始めの頃から急速に生育し、一気に結球がすすみます。春どりは特に上昇気温下で生育が旺盛になるため、この時期に過度の乾燥による生育遅延は小玉になるだけでなく、生理障害や抽台の原因となります。また、肥効の低下もあるので、適湿に保つことが大切です。晴天が続くようであれば灌水します。